



Special Talk

Muneyuki Sato



Keita Sugawara

理事長対談

歌手・タレント

公益社団法人 仙台青年会議所
第70代理事長

さとう 宗幸 × 菅原 啓太

と き
季節はめぐり また夏が来て

さとう宗幸氏は43年前、全国的に無名でありながら「青葉城恋唄」という後世に語り継がれる名曲を発売し、100万枚を超す大ヒットを記録しました。今回は、長年この仙台というまちと向き合い、まちの変化を見てきた さとう宗幸氏に青葉城恋唄と関わりの深い毎年の風物詩でもある仙台七夕への想い、そして東日本大震災から10年経った今、これからも愛する仙台への想いを伺いました。

菅原理事長（以下、菅原） 本日は、仙台の著名人として、仙台の夏の風物詩でもある仙台七夕に縁のあるさとう宗幸さんにお話を伺いたいと思い、対談をお願いさせていただきました。よろしくお願いたします。

さとう宗幸さん（以下、さとう） 私もお会いできることを楽しみにしていました。こちらこそご指名いただきました。ありがとうございます。

**名曲「青葉城恋唄」
〜誕生秘話と七夕の夜空の下で
歌ったあの日を振り返る〜**

菅原 さとう宗幸さんといえば、まずは代表曲の「青葉城恋唄」を連想いたします。今回の対談では、楽曲が誕生した背景をお聞かせいただき、そして、1978年の第9回七夕前夜祭（仙台七夕花火祭）のステージで歌われたときのエピソードをお話いただきたいと思っております。

また、東日本大震災から10年経った仙台に想うことなどをお聞かせいただきたいと思っております。

さとう 1978年に七夕前夜祭で、歌わせていただきました。それにして当時の記事をよく見つけましたね（1978年の「のぞみ」を見て）。菅原理事長は今おいくつですか。



1978年発行「のぞみ」

菅原 今年で33歳になります。1988年生まれです。

さとう そうですか。青年会議所に今いるメンバーには、当時の七夕前夜祭の西公園のステージ企画を、ご存じの方はいらつしやらないでしょうね。43年前ですから。

菅原 そうですね。それこそ当時の「のぞみ」が残っていて、拝見させていただきました。

さとう 懐かしいですね。私の曲が全国的にヒットした背景は2つあります。一つ目は、1978年の仙台の七夕前夜祭のあのステージでした。青葉城恋唄は、私と同時期にダークダックス



スの皆さんも競作で発売されました。

そのこともあって、七夕花火祭の実行委員会の皆さんの企画だったのか、レコード会社の思惑だったのかかわりませんが、青葉城恋唄を歌っているダークダックスとさとう宗幸を同じ七夕前夜祭のステージに立たせようということになりました。大ベテランのダークダックスの皆さんに比べて、私の名前は、地元仙台では知られていましたが、全国的には知名度が低い頃でした。そのような状況でダークダックスの皆さんと同じ舞台上に立つとなると、見栄えとして弱いということ、レコード会社と事務所ので考えたのが、青葉城恋唄を歌う私と浴衣姿の宮城学院の女子大生を共演させることで、夏の爽やかな雰囲気を出す演出をしました。それが地元仙台でのヒットに火をつけていただきました。だから、当時の七

夕前夜祭の実行委員会が、何度も打合せに来ていただいた記憶が今でも残っています。

そして、もう一つ、これは皆さん当然ご存じでないと思いますが、当時の朝のNHKの全国ネットのニュース番組で、スタジオリポート（1965年〜1980年）という報道番組がありました。その番組は、サラリーマンの方や経済人の方を含めて、ほとんどの方が見るといぐらいの高視聴率番組でした。番組内で、今仙台で「青葉城恋唄」がひそかなブームになっているということで、取り上げていただくことになりました。青葉城址の林の中で、そこそ流しみたいにギターだけを持って、歌わせていただきました。

当時は、報道番組で、1人の歌手が歌うということがまずあり得ない時代で、1コーラスだけじゃなくて2コーラスも歌わせていただきました。そし





公園のステージが思い浮かぶと同時に、あのときに仙台から大きなうねりをつくってくたさった皆さんに、本当にもう43年たった今でも感謝しています。

菅原 こちらこそ本当にありがとうございます。実は、私も2019年に仙台七夕花火祭の実行委員長を務めさせていただきました。その経験から仙台市の皆さんにとって、仙台七夕花火祭は一大コンテツツになつていくなあと改めて感じました。そして、1978年当時にさとう宗幸さんや仙台青年会議所の先輩方々が仙台七夕花火祭の価値を高めてくださったおかげで、今

もなお続けて開催できているのだらうと感じております。

さとう ちなみに、それまでは、仙台には意外にもご当地ソングが存在しませんでした。当時、全国にご当地ソングはありましたが、当時の音楽業界では、仙台からご当地ソングはヒットしないというジンクスがなぜかありました。音楽では仙台はある意味、不毛の地とまで言われていました。仙台から名曲でありますとか、シンガーも含

めて、いろいろな仙台を歌った楽曲があっても大ヒット曲になるということはなかっただけに、この青葉城恋唄のヒットは、私も仙台のレコード店の皆さんも地元メディアの皆さんも念願の思いでした。NHKの放送がきっかけで全国的に広まった青葉城恋唄ですが、地元では、イの一番に東北放送で取り上げてくださったりして、仙台から生まれた楽曲だということも仙台のメディアが取り上げて押し上げてくれました。

菅原 なるほどですね。そのようなジンクスの中で青葉城恋唄が今までの流れを変えるように、仙台の多くの人々を巻き込んでいったのですね。

さとう さらに、1978年当時は、仙台駅はまだ国鉄の時代です。駅構内で1人の歌手の歌を流すということは国営だけに御法度ですが、当時の駅長さんの英断で仙台駅に特急が着くたびに、青葉城恋唄をホームで流してくれました。そして、極めつけに大晦日の紅白歌合戦に出た12月31日はエンドレスで青葉城恋唄を仙台駅構内で流してくれました。ですから、皆さんが御法度やルールを破ってまでも仙台からヒットした曲を押し上げてくれたことは、私にとつて忘れてはいけないことです。

菅原 皆さんが一体となつて押し上げていただいたということは、仙台市民も待望したことだったのではないのでしょうか。

さとう はい、そうですね。おそらく多くの方も喜んでくださったと思います。1978年当時、仙台市から1枚目となる賛辞の盾をいただけたことも嬉しく思います。

菅原 青葉城恋唄が仙台のご当地ソングとして有名になるまでにそんな秘話があったことを知る事ができまして、大変嬉しく思います。

さとう 翌年、東北学院大学も含めて宮城県内の大学受験者数も増えたという話です。

菅原 大変素晴らしい効果ですね。私たちも、若い人たちに仙台に来てほしい、仙台にそのまま留まってほしいということを考えていますが、1978年はそれが歌の力で実現していたということですね。

さとう そうですね。仙台に興味を持ってくれる受験生、若者がたくさんいらつしやいました。

仙台七夕への想いと誇り

菅原 青葉城恋唄の歌詞を拝見しますと、「七夕」というキーワードが結構出てきますが、仙台七夕まつりに対するさとう宗幸さんの想いや考えというのをお聞かせいただけますでしょうか。

さとう そうですね、デビューして間もない頃、たまたまテレビを見ていた

て、その放送が終わってから、全国のレコード店からのオーダーが殺到しました。それが全国的な大ヒットのきっかけとなりました。

菅原 そんな経緯があったのですね。仙台青年会議所も大変貴重なご縁をいただいて、ありがとうございます。

さとう こちらこそ、ありがとうございます。仙台青年会議所というところ、イの一番に1978年の七夕前夜祭の西

ら、全国放送の朝の番組で神奈川県平塚市の七夕まつりを持集していました。そのときのレポーターが、「ここが日本一の七夕の平塚です。御覧ください。」と報道していましたが、当時の平塚の短冊飾りは、ビニールで仙台の七夕まつりの豪華絢爛なきらびやかさとは全然違っていました。仙台七夕まつりは、40年前もそして今も恐らくこれからも、誇りとすべきところでしょう。それは、七夕を大事に愛している仙台市民の総意だと思います。



菅原 仙台に誰かを連れてこようとする

と仙台は何もないと言う方がいますが、自分たちが住む土地、自分たちの地域を「日本一、一番いいところだ」と言いたくないのかと私は思います。仙台には日本一の七夕まつりがあるじゃないかと。その前日には、仙台市民の皆さんに非常に周知されている仙台七夕花火祭があり、仙台は、価値ある魅力が大いにあると思います。

さとう おっしゃるとおりですよ。

菅原 少し話は逸れてしまいましたが、仙台は青葉まつりもありますし、瑞巖寺や輪王寺など素晴らしい町並みや文化が見えてくると思います。

さとう そうですね。歴史遺産はたくさんありますし、それは近代的なものだけじゃなくて、伊達政宗公以前の仙台はそんなに深くはわからないまでも、政宗公以降の仙台は、政宗公自身がこのまちに価値をつくり出そうという意気で造られたまちだと思います。ですから、脈々とした歴史そのものと、その歴史がつくり出してきた遺産というものが仙台のまちにはいっぱいあるから、青年会議所の皆さんにこれからも全国に発信して守っていただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

菅原 かしこまりました。仙台七夕花火祭はご覧になったことはありませんか。



さとう もちろんあります。最近の花火は近場では見たことはないですが、少し離れた場所から見ています。

菅原 ありがとうございます。

さとう あとは、2006年にカズシツクさんと私と坂本サトル君と仙台七夕花火祭のカウントダウンライブで西道路の歩道橋の上で歌わせてもらいました。その時の印象というのはすこかったです。

菅原 ありがとうございます。歩道橋の上は花火の眺めがすごく良いですよ。ね。あそこから見ると一番の特等席です。実は、西道路を封鎖するのも花火のときだけです。なので、道路点検の方々も、そのタイミングに西道路を点検します。ただ、西道路を止めて観

客の方々がずらっと広瀬通方面に並ぶ姿、そして、花火が上がったときの喚声というのは思い返すだけで胸が高鳴ります。

さとう 本当によいことです。あれは青年会議所の皆さんにとって感動のひと時でしょう。

菅原 そうですね。もう本当に感動のひと時です。残念ながら去年はコロナ禍もあり、例年同様の仙台七夕花火祭の開催ができず、大変悔しかったです。ただ、通常通りに開催ができないときに全く開催をしないわけではなくて、何かできる方法をその時々で考えて続けていきたいなと思っております。

さとう そうですね。まちの誇りを絶やさずに続けていただきたいと思っています。

東日本大震災から10年経ったいま想うこと

菅原 話は変わりますが、ちょうど今年で東日本大震災から10年という節目の年です。この10年間、さとう宗幸さんがいろいろと仙台を見続けたうえで想うことがあればお聞かせ願いたいと思います。

さとう 東日本大震災の被災地というと沿岸に目を向けがちですけれども、沿岸の被災地を支えることに貢献できたのは、仙台市のように大きなまちがあればこそだと思います。そのような

意味で、あの巨大地震の被災地の一大都市として、仙台というまちはその役割を果たしてきたという想いは感じています。

ただ、100万都市でも、あれだけの巨大地震が来ると日常が完全に失われるものですね。

菅原 そうですね。東日本大震災以上の震災や災害がまだこれから全国的には起こる可能性があると言われていきますし、被害の大きさが想像できないところもたくさんあるだろうと思います。

さとう ある意味、今後想定される地域においては仙台を含めて、東日本大震災の被災の経験をいろいろな形で知っておく必要があると思います。もちろん、その後の10年間も含めてです。

菅原 そうですよ、確かにそうです。



さとう 震災当

時が、どのようだったかだけではなく、震災後の被災地はどうだったかも含めて、これから被災が想定される所の人たちは、東北に目を向けていただきここから習うべきものを習っていただければ幸いです。

菅原 青年会議所は全国に会員が約3万人いて、仙台にも何かあれば来る方もいらつしやいます。そういう方々がお越しになったときは、当時の遺構をご覧いただくだけではなくて、その後に復興に向けて歩んでいったかをお伝えしております。被災後の現在、どのような生活を送っていて、それを自身の家族や周りの方に何を伝えたいのかということを見ていただいたりもしています。そのような点が大事だと思っております。

さとう 本当に大事だと思います。とりわけ、被災地の震災直後のコミュニ



ティー作りは、被災地の我々もよく知って、それを伝えていく必要はあると思います。いろいろな形のコミュニティ作りがありました。一つの体育館に2千人ぐらい集まって、寝るところも確保できないような避難所で、どうやってコミュニティをつくらせていったらいいかを悩んでつくり上げていった人もいます。それは、勉強しておく必要があると思います。これから被災が想定

される地域にお住まいの人にとっては、特に必要だと思います。

菅原 そうですね。かといって、この宮城県とか東北地方も全く今後被災の可能性がないとも言えない状況です。

さとう そんな話を聞きますね。震災の記憶を風化させずに、今後起こるかもしれない災害に備えることが大切ですね。

仙台青年会議所メンバーに向けて

菅原 最後になりますが、私たち仙台青年会議所メンバーに向けてメッセージがあればお聞かせいただけますでしょうか。

さとう そうですね、ライオンズさんやロータリーさんなど幅広い年代の方々のボランティア団体もありますが、青年会議所の皆さんはとにかく若いので、発想を大事にしてほしいです。若い人の話をする、よく口に出すのは震災のときの女川の話です。今の須田善明町長はまだ40代です。10年前にまだ彼は30代でしたけど、震災直後から新しい女川のまちづくりをすると提言したときに、今後のまちづくりに関しては60歳以上の人間は口を出さず、とにかく若い者に任せようと町民が一体となって復興を行ってきました。そして、驚いたのが実は60歳以上の人間は口を出さなかったのが60歳以上の人たちだったのです。



菅原 これからのまちづくりは若い人
たちだけで考えなさいと伝えたかった
のですね。

さとう そうです。だから、女川のま
ちというのは、いち早くまちの形をつ
くり始めました。また、震災後の津波
被害に遭ったにも関わらず、女川町は
防潮堤がありません。おそらく、その
アイディアも若者たちの発想だと思い
ます。やはり港町に生まれて、海のそ

ばで海を愛して育ってきた若者たち
が、この女川で海が見えないのはおか
しいと考えて、防潮堤を造ることをや
めたのでしょうか。そういうことも若い
人たちがみな率先して女川のまちづ
くりを構想したためだと思います。

それと同じように、仙台のような1
00万人都市が歴史と伝統を踏襲する
だけじゃなくて、それを大事にしなが
ら若い人なりに活動してほしいです。
しかも、青年会議所の皆さんはいろい
ろな意味で発言力、発信力を持つ
ていると思うので無駄にしない
で、どんどん前に出していつて
ほしいなと思います。

菅原 ありがとうございます。

さとう ただ、年寄りたちは、
ことごとくそれは駄目だ、これ
は駄目だと言うと思うけれど
も、それに屈してほしくないと思
います。若い発言力、発信力、
リーダーシップのある皆さんだ
と思っているから期待しており
ます。

菅原 仙台青年会議所では、理
事長が毎年スローガンを作りま
すが、今年のスローガンはこの
「Stand Out!」にして
います。この言葉の意味は飛び
抜けたとか傑出したという意味
です。いい意味で出る杭を指
しております。

さとう なるほど、いいですね。



菅原 おっしゃるとおり、周りからは
いろいろ言われると思いますが、それ
は叱咤激励だと捉えて、自分たちの
思っていることを行動に移して発信し
ていこうと考えています。まちを良く
するために自分たちが思っていること
を発信して行動していく若者も地域に
は必要だと考えます。だから、僕は
僕らなりに考えていることをどんな
発信して、打たれてもいいじゃないか
と、やっていこうという意味合いを込
めております。

さとう そうですね。まさに、いろい
ろなことに働きかけていってほしいと
思います。今までのこの社会で功成り
名を遂げた人というのは、多くの方が
思い切って何かに働きかけるとい
う世代ではなくって、だ
からこそ何かにかく働きかけること
によって、全部が成功するわけではな

いけどそういうのを大事に活動してほ
しいと思います。

菅原 はい。本日はありがとうございます
ました。

さとう こちらこそ本日はありがとう
ございました。



さとう 宗幸（さとう・むねゆき）
1978年に発売された「青葉城恋
唄」が100万枚を超す大ヒットと
なり、その存在が全国に知られるシ
ンガー・ソング・ライター。現在、
ミヤギテレビの夕方の顔として25年
以上続く「OH!バンドス」のパー
ソナリティーを務めている。子供か
ら大人までに愛される仙台を代表す
る歌手として活躍している。